



稲作農家 各位

# 山武稲作情報 第3報

## (2020年6月18日発行)

山武農業事務所 改良普及課  
 電話 0475-54-0226  
 FAX 0475-52-7914

### 山武地域の生育状況

6月に入ってから平年と比べて気温が高く推移しました。活着が良好であったほ場では生育が順調です。4月末までに移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」は幼穂形成期（幼穂長1mm）に平年より3日前後早く到達しました。「コシヒカリ」、「粒すけ」も、5月上旬までに移植したほ場では6月下旬に幼穂形成期に到達する見込みです。中干しを継続し、過繁茂を防止するとともに田面を固めましょう。

一方、移植以降、還元害による生育抑制が続いているほ場も見られます。5月上旬までに移植したほ場では穂数が決定する時期を過ぎているため、田面に軽い亀裂が入るまで中干しを行い、土を酸化的な状態とすることで今後の生育の回復を図ります。

表1 作柄調査ほ等の生育（調査日6月15日、平年値は過去10年（成東育成地は7年）の平均）

品種	場所	年	移植日	葉令	草丈 (cm)	莖数 (本/株)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 SPAD	葉色 カラー スケール	幼穂形成期 (見込み)
ふさおとめ	山武市 (成東育成地)	2020	4/24	11.4	51	32	585	38.6	4.8	6/12
		2019	4/25	10.5	50	33	601	39.2	4.9	6/17
		平年値	4/26	10.4	50	31	563	38.2	4.7	6/16
	山武市 (白幡)	2020	4/29	11.1	48	26	548	41.9	5.2	(6/19)
		2019	4/26	10.5	40	18	367	40.8	5.1	6/21
		平年値	4/27	10.7	47	27	496	40.9	5.1	6/18
ふさこがね	山武市 (成東育成地)	2020	4/24	10.5	56	31	582	37.6	4.7	6/15
		2019	4/25	10.1	50	35	649	41.4	5.1	6/18
		平年値	4/26	10.3	52	31	568	40.4	5.0	6/17
	山武市 (井ノ内)	2020	5/2	10.7	54	43	673	45.0	5.6	(6/21)
2020年から新設のため平年値、前年値無し										
コシヒカリ	山武市 (成東育成地)	2020	4/24	10.5	58	25	464	34.5	4.3	(6/21)
		2019	4/25	9.2	47	31	581	42.0	5.2	6/24
		平年値	4/26	9.5	49	30	541	38.8	4.8	6/24
	東金市 (幸田)	2020	5/2	10.1	52	22	392	38.1	4.7	(6/26)
		2019	5/4	10.4	49	24	409	40.8	5.1	6/28
		平年値	4/26	9.9	53	30	522	41.6	5.2	6/26
粒すけ	山武市 (成東育成地)	2020	4/24	10.8	55	28	526	35.4	4.4	(6/19)
		2019	4/25	10.2	47	35	640	43.0	5.3	6/30
【飼料用米】										
アキヒカリ	山武市	2020	4/26	—	56	46	741	44.0	5.5	(6/16)
夢あおば	山武市	2020	5/15	—	50	26	422	48.5	6.1	—

表2 幼穂形成期（実測値、予測値）

品種	ふさおとめ			ふさこがね			コシヒカリ			粒すけ		
	移植日	4/20	5/1	5/15	4/20	5/1	5/15	4/20	5/1	5/15	4/20	5/1
幼穂形成期	6/13	6/18	—	6/15	6/20	7/2	6/22	6/26	7/8	6/20	6/25	7/8

予測値は令和元年度試験研究成果普及情報の推定式により気温（アメダス横芝光）から計算して推定（「粒すけ」は調査ほ等の生育から推定）。移植時の苗の葉令、活着状況、ほ場ごとの気象条件、予測日以降の気象条件等による誤差あり。

## これからの管理のポイント

### ○穂肥のタイミング

4月20日植えのほ場は、幼穂形成期（主茎の幼穂（図）の長さが約1ミリメートル）を迎えます（出穂期前25日頃）。幼穂形成期を迎えたら入水し、出穂期前3週間から出穂期後2週間は湛水状態とします。穂肥は、施用時期が早いと倒伏の危険性が高まり、遅れると食味低下の原因となります。幼穂長が下表のように確認できたら、穂肥を施用しましょう。

表 穂肥の施用時期と幼穂長

品種	幼穂形成期からの日数	幼穂長の目安
ふさおとめ	0～7日後	0.1～1cm
ふさこがね	7日後	1cm
コシヒカリ	7～15日後	1～8cm
粒すけ	7日後	1cm

※10a当たりの穂肥窒素量は3kg

（ただし、砂質土のコシヒカリは3～4kg（4kgの場合は分けて施用）。）

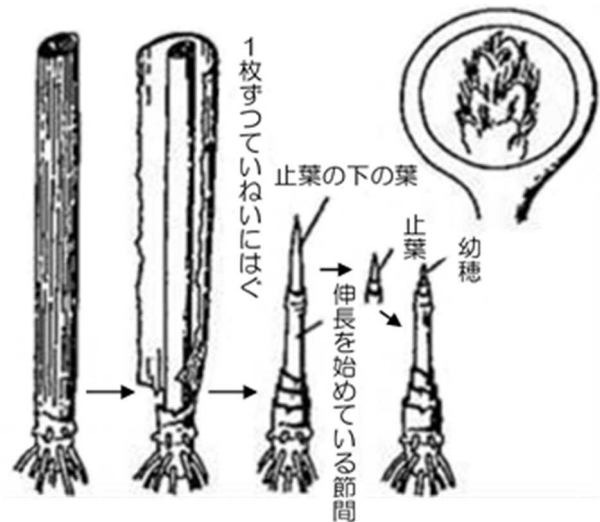


図 幼穂の確認方法

（千葉県「稲作標準技術体系」より）

### コラム③ ケイ酸の施用効果

米の収量増加、品質向上や倒伏軽減、高温登熟障害を抑えるためにケイ酸資材の利用が注目されています。水稻はケイ酸植物といわれ、1作に約100kg/10aものケイ酸を吸収します。ケイ酸が不足する土壌では、ケイ酸を施用すると生育が良好になります。

吸収したケイ酸の3割が穂に、7割がわらに含まれるので、収穫後に稲わらをすき込むことで、ケイ酸を水田に返すことができます。

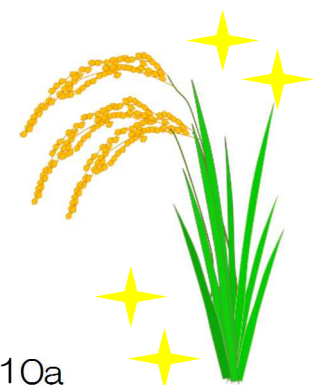
#### ○ケイ酸の主な効果

- 過剰な蒸散を抑えたり、葉を直立させたりする効果によって光合成を促進する！  
⇒**籾数増加、登熟向上、根の活力増進** … 収量・品質向上、高温障害や秋落ち水田対策
- 葉や茎の表面に蓄えられて稲を強くする！  
⇒**病害虫に強くなる** … いもち病、ごま葉枯病、ニカメイガへの抵抗性向上  
⇒**倒伏しにくくなる** … 作業性向上、収量・品質向上

#### ○ケイ酸資材の効果的な施肥法

ケイ酸は、幼穂形成期以降にも多く吸収されるので、基肥としても、追肥としても有効な栄養素です。

- 秋～春：初期生育の確保、籾数増加、病害虫対策等  
例) ケイ酸石灰（ケイカル） 100～200kg/10a
- 幼穂形成期頃：高温、日照不足条件下での登熟向上等  
例) ケイ酸加里、熔成リン肥（ようりん） 40kg/10a



次回の情報は6月30日（火）に発行する予定です。